

■■■■■■ 浜詰まちづくり計画 ■■■■■■

この子たちの未来に住み良いまちを



平成25年秋祭、写真提供 愛護会

平成25年12月

浜詰区まちづくり計画策定委員会

●●●●● 目 次 ●●●●●

はじめに

浜詰の地域課題と目標

活気あふれる地域づくり

あいさつ運動の推進

隣組寄り合いの活発化

女性がもっと表舞台に

少子化対策

ラジオ体操の取り組み

交通の確保

自治会活動の透明化

農業団地センター改修

中学校再配置による校舎跡利用

高齢者が元気な地域づくり

憩いの場づくり

地域包括ケアへのアプローチ

安心安全な地域づくり

地域防災計画の周知

急傾斜地等の危険対策

自主防災の組織化

避難行動要支援者への対応

橋診療所の存続

村の給油所への対応

魅力ある地域づくり

砂浜の清掃

水洗化率の向上

道路整備

海岸護岸堤の市道側溝改良

無電柱化の推進

花、樹木の植栽

文化・スポーツ、人権啓発の推進

産業が元気な地域づくり

企業誘致、働く場づくり

6次産業、特産品加工
地域産業座談会の提言
目標達成の年次計画

浜詰まちづくり計画アンケート結果

回収率

性別

年齢

続柄と家族構成

生まれ

仕事

住んでいる理由

住みやすいと感じているところ

住みにくいと感じているところ

将来も浜詰に住みたいか

住んで誇りに思うもの

サークルに参加しているか

やりたい環境美化活動

男女共同参画社会になっているか

支え合いがあるか

高齢で介護が必要になったときどうするか

避難場所を知っているか

望ましい浜詰の将来像

まちづくりで何を優先するか

自治会活動が見えているか

統計資料

世帯数と人口

織物実態統計調査

観光入込客統計

農林業センサス

橘小学校の学級数及び児童数

年齢別男女別人口

産業別就業者数

はじめに

あなたは将来も浜詰に住みたいと思いますか。区民アンケートのこの問に対して回答は、住みたい47%、住まざるを得ない49%、住みたくない4%の割合でした。平成8年調査時と比べると、住みたいは15ポイント減、逆に住まざるを得ないは14ポイント増えています。時の流れとはいえ何やら寂しい気がしますが、これが現実です。

住みたいと言ってもらえる地区にするために、アンケートで見えてくる課題があります。しかし、その多くは解決が容易ではなく、即効薬はありません。それでも、行政はじめたくさんの力も借りながら、区民みんなで少しずつ地道に努力していくしかありません。そのための自治会運営の基本方針となる「浜詰まちづくり計画」を策定しました。

浜詰区の長期総合計画は、昭和47年10月に第一次、昭和62年5月に第二次、平成8年2月に第三次が、塩江区を含んで策定され、平成17年11月には過去の長期計画の検証が行われてきました。当時それぞれに熱のある、熟慮された計画に仕上がっていますが、当時から10年近くが経過し、地域を取り巻く環境も大きく変化している中、新しい計画づくりを進めることにしたものです。

区民アンケートの回収率は50%でしたが、多くのご意見を頂戴しました。その全てを計画に盛り込むことは不可能ですが、区民の皆様の合意形成が出来るよう配慮したつもりです。

まちづくりは、つまるところ住みよいまちづくりです。区民一人一人が何事にも自治意識を持ち、自分が主人公となることが、暮らしてよい町につながると考えます。計画は出来ましたが実現のためにはこれからがスタートです。区民の皆様のご協力を切にお願いいたします。

平成25年12月

浜詰区まちづくり計画策定委員会（50音順）

東 清一 沖田 真奈美

西途 陽子 中西 雄一

久 高志 堀 一郎

山根 弘子

（浜詰区役員）

前田 和夫 東 泰男

松本 伸夫 松本 豊明

山松 祥伸 大道 均

浜詰の地域課題と目標

◇ 活気あふれる地域づくり

区民相互が連帯感をもって支え合う気運の醸成は、まちづくりの基本です。子供達や高齢者、障がいがある人の日頃の見守りや災害時の手助けなども、区民間の連携があつてこそ可能になります。区民アンケートでは、区民同士の支え合いが「ある」「まあまあある」と答えた人が54%に対し「あまりない」「全くない」が46%と拮抗しています。

△ あいさつ運動の推進

まずは、あいさつから始めて区民間の距離を短くしましょう。何気ない会話でもあなたと周囲を生き生き元気にさせます。区役員はもとより代議員全員が中心となって実践していくことから始めていきます。

△ 隣組寄り合いの活発化

浜詰区規約に「区政の円滑を期するため下部組織として組をおくものとす」とあります。一部隣組で形骸化していると言われる「隣組寄り合い」を活発化させ、区民の交流の輪が広がることを期待します。そのための方策として、区役員が隣組寄り合いに出かけて自治会活動に関し意見交換をしてはどうか、という声もあります。

△ 女性がもっと表舞台に

「男女共同参画社会」といわれて久しいですが、地区内には職種、世代の壁を越えた女性組織がありません。区民アンケートにおいては、「女性の声が地域で十分活かされていない」、とする回答が全体の7割強に上っています。女性の声を区政に反映させるための方策として、実現には困難もあるでしょうが、区代議員に女性枠を設けるなどの対策を検討することが必要です。婦人会の組織化を望む意見もあります。

△ 少子化対策

子供を産み育てやすい環境をつくることは、国において考えられることですが、区としても旧浜詰小学校跡地を京丹後市から取得し若い世代夫婦に分譲する、府営住宅の建て替えを要望する、等を検討していく必要があります。

公園の遊具については、特に安全面の確認を怠らず、必要に応じ修繕や更新をしていく必要があります。

なお、保育所入所までの乳幼児と保護者を対象にした子どもサロン「たちばな」が木津連合区で運営されており、これと連携して取り組むことも考えたいと思います。また、学童保育を望む声もあります。これらの運営において、読み聞かせの大切さを強調する意見も寄せられています。

△ ラジオ体操の取り組み

健康づくり、区民交流の場として老若男女、区民総出のラジオ体操をすることを検討課題とします。松寿会、愛護会が協力して実現できないか、相談していきます。

△ 交通の確保

区民アンケートでは、浜詰が住みにくいと特に感じているところは「交通が不便」がトップで、3番目に「買い物に不便」が上がっています。高齢者を中心に「買い物バス運行」の希望も何件か寄せられています。公共交通機関の利便性向上が第一と考えます。上限200円バスダイヤの見直し、増車やバス停の増設を引き続き要望していきます。なお、買い物バス運行は、過去には社会福祉協議会が実施していたこともあるようですが、現状では困難と言わざるを得ない状況です。

△ 自治会活動の透明化

区民アンケートによると、自治会活動（浜詰区政）について「何をしているかよく見えない」と答えた人が全体の4割強にも上っています。「区政だより」の発行や区民総会の開催などに工夫が必要で、部長会や代議員会で議論の必要があります。具体的意見として、代議員会の傍聴呼びかけや各種団体の連絡協議会の立ち上げによる自治会活動の共有化があります。

△ 農業団地センター改修

農業団地センターは農業構造改善事業として採択され、昭和58年6月に完成しました。以来、地域活動に欠かせない拠点施設になっていますが、築30年経過や塩害による腐食が甚だしく、小手先の改修を積み重ねるだけでは追いつかなくなって来ています。災害時の避難場所として指定されていることもあり、平成26年度には市の補助を得て屋根及び外壁等を中心とした大規模改修に踏み切り、区民にとって「安心・安全な施設」として末永く活用する計画です。ただ、大規模改修後においても老朽化は否めず、外壁剥離などで負傷するようなこと等がないよう、常に維持修繕に努める必要があります。

△ 中学校再配置による校舎跡利用

平成27年4月には橘中学校が閉校し橘学区の生徒は新生網野中学校に通うことが決まっています。地域にとって大きな痛手ですが、生徒数が減少する中での教育環境の保持の観点からやむを得ないものと受け止められています。小学校が空いた中学校を使う案も保護者から希望があるようですが、小学校なり中学校の跡をどう活用するか、市教委と話し合いで有効活用之道を探っていかなければなりません。区民アンケートでは、農海産物の加工販売施設、老人ホーム等福祉施設、スポーツ・レクリエーション施設、生涯学習施設、図書館とカフェ、サークル活動、美術館、ショッピングセンター、大学や企業誘致、等々たくさんの意見が寄せられました。

◇ 高齢者が元気な地域づくり

高齢化が全国的に進み、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成 22 年に 23.0%（京丹後市 30.9%）であった「65 歳以上人口割合」は 27 年 26.8%（同 35.0%）、32 年 29.1%（同 37.1%）となり 37 年には 30.3%（同 38.7%）に達します。「65 歳以上単独世帯割合」も、平成 22 年 30.7%、27 年 31.8%、32 年 33.3%、37 年 34.8%と増加していく予想です。また、国民生活基礎調査によると、平成元年に 60.0%あった「65 歳以上の者とその子の同居率」は年々低下し 24 年には 42.3%となっています。

△ 憩いの場づくり

地域の老人会組織として松寿会がありますが組織率が低いのが課題です。また、楽しみながら身体と心、両面の健康増進を進める元気塾が運営されていますが、男性の参加がほとんど無いのが残念です。そうした中、お年寄りの誰もが集える温泉付きの憩いの場を求める声があります。すぐに箱物を建設するのは難しいため、例えば月 1 回、上限 200 円バスを利用して皆で「花ゆうみ」に出かけることに区が助成する案等を検討していくことにします。

また、他地域に見られる空き家を利用したサロンのものを社会福祉協議会の力を借りて運営することも課題です。

△ 地域包括ケアへのアプローチ

高齢になると介護、生活、医療等の支援が必要になりますが、さらに自立困難度が増し、家族等のサポートが得られない場合は施設入所をせざるを得ないこととなります。浜詰においても独居老人が増えていく中、住み慣れた土地で国民年金の基礎支給額程度で利用できる軽費老人ホーム（高齢者あんしんサポートハウス）の建設が課題となります。

区民アンケートでは、高齢で介護が必要になったとき「施設に入所したい」が 54%（平成 8 年調査時 19%）、「家族にみてもらいたい」35%（同 64%）と考え方が大きく変化してきています。

◇ 安心安全な地域づくり

大きな河川が無いためか、当地は幸いにして他地域に比べて水害はほとんどなく、そのせいもあってか市内一斉の防災訓練に区民の関心は薄いのが実情です。区民アンケートでも、住みやすいと感じている自然環境の次に「災害が少ない土地柄である」が上がっています。しかしながら、昭和 2 年の丹後大震災を持ち出すまでもなく近年、「想定外」とか「ゲリラ豪雨」とかいわゆる事象が頻発しています。警戒をゆるめることなく防災意識を保持することが必要です。

△ 地域防災計画の周知

迅速な災害対応のためには、市の地域防災計画（一般計画編、震災対策編、原子力災害対策編）に盛り込まれている内容を、区役員はもとより区民が常日頃からよく承知しておくことが大切になります。区民アンケートでは、災害時の避難場所について「知っている」人が61%ありますが、「知らない」も32%あり、「場所が適当でない」も7%ありました。

△ 急傾斜地等の危険対策

地区内には、「急傾斜地警戒区域」に18世帯、「急傾斜地特別警戒区域」5世帯、「土石流警戒区域」6世帯が居住しています。土留め等の事業化は採択基準に適合しないため、大がかりな抜本的対策は困難ですが、行政からの土砂災害警戒情報や避難勧告等を待つことなく常に警戒は怠れません。危険箇所には、土砂崩れの簡易観測装置を設置していく考えです。

△ 自主防災の組織化

地域住民が自主的に連帯し、防災活動を行う組織として自主防災組織がありますが、市内でも網野町は特に低率の組織率です。市からは浜詰区など未組織の地域に組織化が呼びかけられており、実効ある組織のあり方等を相談していく必要があります。

△ 避難行動要支援者への対応

災害時要援護者のうち家族以外の第三者の支援がなければ避難できない人を、本人の申し出によって市が民生委員の協力で「避難行動要支援者」として登録しています。地区内では40名近くの方が登録されていますが、中には家族の支援が期待出来る人も含まれています。地区として、いざという時のために、まず真に第三者の支援が必要な人を民生委員の協力を得て常に把握しておく必要があります。その上で、避難支援を誰がどのようにするのかを明確にしておきたいと考えます。

△ たちばな診療所の存続

地域の諸先輩の努力により、無医地区解消の悲願が実ってたちばな診療所が開所したのが平成6年8月のこと。以来、久高志先生を迎えて体制が整いました。今後とも先生や医療法人三青園の意向を尊重しながら地域医療の存続に十分配慮していかねばなりません。

△ 村の給油所への対応

存亡の危機にあった夕観・村の給油所は、4名の地区有志によって引き継がれました。区も存続を望む多くの区民の声を受けて無利子貸付けの支援を行いました。しかしながら、消防法の規定で現行のタンク監視方法では、平成30年末までの経営しか出来ず、その時点で問題が再浮上することになります。区としても区民の意向を汲んだ対応を迫られることになりそうです。

◇ 魅力ある地域づくり

府が提唱する「海の京都」、市が推進する「日本一の砂浜海岸づくり」そして「ジオパーク」と、ここ夕日ヶ浦の地は脚光を浴びつつあります。区民アンケートでも、浜詰が住みやすいと特に感じているところは「自然環境」の良さです。住んでよいまちが訪れてよいまち、と言われるように、区民の力で地域の良さに磨きをかけ、清潔で魅力あるまちにしていく必要があります。

△ 砂浜の清掃

まず、区民の財産とも言える砂浜を美しく保つ必要があります。区民アンケートでも、浜詰に住んで誇りに思うもののトップは「砂浜・海岸」であり、やりたい環境美化活動としては「砂浜清掃」「海岸清掃」が上位です。砂浜清掃は観光協会や区役員を中心に度々実施されていますが、区民全体の活動となることが望ましく、小中学生を含めた活動の工夫が必要です。

△ 水洗化率の向上

平成 13～14 年に公共下水道が供用開始されました。区では下水道加入促進のため供用開始後 3 年以内は「受益者分担金」の全額を、現在でも一世帯 30 万円の助成を行っています。しかしながら、10 年経過した今でも地区内の普及率は 5 割程度で芳しくありません。高齢者世帯の市補助金が新設されたこともあり啓発に一層力を入れる必要があります。

△ 道路整備

懸案の国道 178 号（浜詰三叉路）と市道上野浜詰線の接続道は、塩江峠道路の改良が済み次第着工が予定されています。これの早期実現と引原峠の消雪装置の新設、新庄側の道路改良に向けては木津連合区、塩江の区長とともに毎年府丹後土木事務所へ出向き要望をしているところです。引原峠は、平成 27 年春に中学生が新生網野中学に通う通学路になることもあって P T A とともに協調して安全で円滑な交通確保のため、要望を引き続き強めます。

△ 海岸護岸堤の市道側溝改良

海岸護岸堤内排水溝と市道側溝の取り合い部分から家庭排水や雨水が溢れしばしば砂浜に流出しています。観光地として大きなイメージダウンにつながっているほか、区民からも自慢の砂浜の環境保全を望む声が寄せられています。市に対して毎年改善を要望していますが、引き続き責任ある対応を強く求めています。

△ 無電柱化の推進

京丹後市内初の無電柱化工事が市道・牛揚げ本線 200mで進められています。生活空間の向上と観光客のイメージアップのため市に実施していただいているものです。引き続き浜詰地区内での工事展開に期待をしています。

△ 花、樹木の植栽

区民アンケートで、やりたい環境美化活動の問に対して、「砂浜清掃」「海岸清掃」に次いで多いのが「花の植栽」です。趣味のガーデニング愛好家も多いと思われます。自宅には各自の好みで様々な花が植えられています。浜辺や海岸には浜詰らしい地の植物を増やすことで地域の魅力を一層高め、区民が楽しみ客も呼べるようにしたいものです。現にハマボウフウの花は素晴らしい景観を呈するようになっています。その一環として区ではユウスゲを増やそうと区民の力を借りて区内や箱石で種を採取し、苗を育てて浜辺に植えています。個人の力では限界がありますので、花好きの区民の手を借りて一層進めていくことを検討したいと思います。

△ 文化・スポーツ、人権啓発の推進

区民アンケートでは地区のサークルやグループについて、「参加する気がない」が 58%を占め、残り 42 パーセントを「参加している」と「参加したいサークル等がない」が分け合っています。「どんなサークルがあるのか分からない」「サークル名を明示し参加を促して欲しい」の意見もあり、その方向で公民館とも連携して取り組む必要があります。

アンケートでは、「余暇や娯楽を楽しむ場が少ない」も住みにくさの中の上位にあり、例えば丹後文化会館の観劇に補助をする、ことも検討してよいのかも知れません。タイムリーな「区民講座」の開催を望む声もあります。

また、地域ではこれまであまり開催例がない人権学習も大切なことです。

地域の伝統文化の一つに秋祭りがあり、神社、愛護会が一体となって保存運営に努めています。祭礼提灯を幹旋し各戸の提灯掲出を増やし、対外的に地域の一体感を演出して祭りを盛り上げることも検討すべき、の意見もあります。

盆踊りは、公民館、青年会等を中心に実行委員会が組織され、伝統の踊り唄「主水口説き」が伝承されています。盆踊りの意味も薄れ、踊りの輪に加わる区民も減ってきており、一層の工夫が課題です。

◇ 産業が元気な地域づくり

区民アンケートでは、浜詰の将来像として「働く場の多いまち」がトップであり、自由意見欄でも、特に若者の働く場を求める声が多く寄せられてい

ます。実現は簡単なことではありませんが、基幹産業の機業、観光業、農業、漁業の発展はもとより、何か新しい産業を育てていければ、と誰しもが強く望んでいるところです。

△ 企業誘致、働く場づくり

働く場の創出は企業誘致が手っ取り早い手段ですが、区単独では到底困難です。市が設置した「企業立地専門委員」への働きかけ等を行い行政を通じ機会を待つしかないようです。

△ 6次産業、特産品加工

農産物、海産物の産品を加工することによって付加価値を高め商品化をめざす、観光と結んで活性化させる、区民アンケートの自由意見欄では「六次産業化」を含め多数の意見が寄せられました。当事者が自らの課題として危機感を持って取り組んでいただくことが大切で、それに対し区も極力応援する考えです。

健康食品ブームの中、海浜の薬草を商品化するという意見もあります。

△ 観光振興

区民アンケートでは、浜詰の将来像として「働く場の多いまち」に次いで「観光・レクリエーションの盛んなまち」が回答の多くを集めています。観光開発については、砂浜は清掃に努め、まち中を開発する意見が多いようです。

また、京都縦貫道未開通区間の京丹波わちIC～丹波IC間が平成26年度開通予定であるなど高速道路の開通を見越して、府が「海の京都」による地域活性化を提唱しています。これに呼応して浜詰地区においても観光協会が主導して「海の京都・夕日ヶ浦推進会議」を立ち上げ、プランづくりを行っています。市においても久美浜湊地区までの遊歩道・自転車道新設の検討がなされています。区としては、こうした動きに区民の意向を意識しながら対応していく考えです。

地域には、足湯を設け観光客と地元民とのふれあいの場を創出する意見も根強くあります。

△ 地域産業座談会の提言

平成24年度区の地域産業座談会においてまとめた地域活性化策、すなわち朝市の開催、料理コンペの実施、そして夕陽を見る遊覧船の運行、を何とか区で試行する考えでいます。本年度、京都工芸繊維大学の協力を得て「軽トラ市」を開催しましたが、悪天候に中止を余儀なくされてしまいました。

当地の「ゆるキャラ」も観光協会の協力で作ってみたいものです。

目標達成の年次計画

区が行政はもとより公民館や各種団体に働きかけて実現をめざします。

	目標と計画達成年次	平26年 ～27年	平28年 ～29年	平30年 ～31年	平32年 ～33年	平34年 ～35年
活気あふれる地域づくり	あいさつ運動の推進	■				
	隣組寄り合いの活発化	■				
	女性がもっと表舞台に	■	■			
	少子化対策	■	■	■	■	■
	ラジオ体操の取り組み	■				
	交通の確保	■	■	■		
	自治会活動の透明化	■				
	農業団地センター改修	■				
	中学校再配置による校舎跡利用	■	■			
つながり高めよう地域気取	憩いの場づくり	■	■			
	地域包括ケアへのアプローチ	■	■	■	■	■
安心安全な地域づくり	地域防災計画の周知	■				
	急傾斜地等の危険対策	■				
	自主防災の組織化	■	■			
	避難行動要支援者への対応	■				
	たちばな診療所の存続	■	■	■	■	■
	村の給油所への対応	■	■	■		
魅力ある地域づくり	砂浜の清掃	■	■			
	水洗化率の向上	■	■	■	■	■
	道路整備	■	■			
	海岸護岸堤の市道側溝改良	■	■			
	無電柱化の推進	■	■	■	■	■
	花、樹木の植栽	■	■			
	文化・スポーツ、人権啓発の推進	■	■			
産業が元気な地域づくり	企業誘致、働く場づくり	■	■	■	■	■
	6次産業、特産品加工	■				
	観光振興	■	■			
	地域産業座談会の提言	■	■			